

11月1日 1895年 池田遙邨が生まれました。

岡山県浅口郡乙島村に生まれ、名前を昇一と言いました。紡績会社の技師であった父親の転勤に伴い大阪市に転居しました。幼少から画才があり、15歳で大阪の松原三五郎が主宰する天彩画塾に入門し洋画を学びました。

松原三五郎からは「デッサンの稽古が大事だから根気よく続けなさい」と繰り返し教えられ、長い間一日中石膏デッサンを描かされたそうです。1914年18歳のときに第8回文展に水彩画「みなとの曇り日」が入選し、天才少年画家と評判になりました。

しかし即写的な洋画に物足りなさを感じていたことと、内弟子として雑用が多すぎて耐え切れなくなっていたときに小野竹喬を知り、その影響で日本画に転じて1918年竹内栖鳳に師事しました。

日本画に転向してほどなく第1回帝展で「南郷の八月」が入選しました。

小野竹喬からは「相当に自然の観察があり、忠実に描かれていて感心しましたが、これからは、少し主観的な見方へ進まれてはどうでしょうか」という生涯忘れることのない助言を得たそうです。

一時期ムンクに傾倒し、関東大震災後には、その惨状を描いた洋画風の「災禍の跡」を帝展に出展するが落選したのをきっかけに、一旦は倉敷に帰郷し寺に隠れて画作の研究をしました。

1928年（昭和3）には『雪の大阪』、1930年には『鳥城』が特選になった。内面性を重んじた暗い表現、大和絵風の表現などを経て、滋味と飄逸味をもつ作品を日展に発表し続けました。

1936年から1949年まで京都市立絵画専門学校で助教授をつとめたり、1953年に画塾・青塔社を主宰したりして、後進の育成にも力を注ぎました。1986年倉敷市名誉市民、1987年文化勲章を受章しました。

歌川広重に傾倒した時には法被姿で東海道五十三次を旅し、種田山頭火に傾倒したときには、山頭火の姿で旅をして、その俳句をモチーフに絵を描きました。このようにいろいろな作家の絵を研究して常に新しい表現を求め続けた画家でした。遙邨は92歳で亡くなるまで画風を様々に変化させながらも独自の世界を確立していきました。

1980年倉敷市は遙邨から489点に及ぶ自作の寄贈を受けたことで、そのときに寄贈された作品をもとに、1983年倉敷市立美術館を開館しましたその後も作家本人や遺族から寄贈を受け8,000点を越えるコレクションを所蔵しています。

11月2日 万霊節

キリスト教で全ての死者の魂のために祈りを捧げる日です。日本ではお盆のようなものでしょうか。11月1日は「万聖節」諸聖人の日、その翌日を万霊節としています。

これは教皇グレゴリオ四世によって特別な祝日を設けてはもらえない諸聖人たちをまとめてお祀りする日とし

て 834 年に定められました。また 1006 年に教皇ヨハネ 19 世が祖霊を祀る日として万霊節を定めました。

万聖節はもともと東方正教会ではじまり、7 世紀にカトリック教会に導入され、8 世紀頃から 11 月 1 日に統一されました。カトリックでは翌日の 2 日が万霊節（死者の日）となっています。

ケルト民族にとっては、11 月 1 日は 1 年の始まりとされており、その前夜であるハロウィンは大晦日になります。この大晦日には祖霊が家に戻ってくる日で、魔物の力が 1 年で最も強まり、魔女や悪霊たちが自由に外を歩き回る日でもありました。

11 月 1 日をまたぐ数日間に焚く火には、ロウソクの火にも暖炉の火にも、特別な意味があるとされています。家に戻ってくる祖霊が迷わないようにとの灯火、霊魂を暖める火、さらに、死者の魂を救い、悪霊をはらう「浄罪の火」でもありました。

カトリック教徒は、「万霊節」に家族で墓参りをします。教会に行くわけですからキチンと黒い服を着て、お墓を水で清め、灯火と花輪を供えます。これは、日本でのお盆の行事に良く似ています。

プロテスタント教会では、このようなアニミズム的なことを否定しており、聖書に書かれていない行事や偶像崇拝を禁止していますので、諸聖人の日や死者の日を祝うことはありません。

面白いことに、アメリカのカレンダーを見ると、10 月 31 日の欄にハロウィンとあり、11 月 1 日には万聖節（英語、フランス語、スペイン語の 3 つの表記）、11 月 2 日にはスペイン語で死者の日（メキシコ）と記載されているそうです。

メキシコ（スペイン語）のカレンダーには 10 月 31 日の欄にハロウィンと英語のみで表記、11 月 1 日と 2 日についてはスペイン語と英語の双方で万聖節と万霊節が書かれているそうです。

またブラジルではハロウィンどころか万聖節も無視されていて、国家の祝日でもある 11 月 2 日の死者の日だけが特記されていて、ブラジルの日本人移民たちは 11 月 2 日を「ブラジル盆」と呼ぶそうです。

イギリスではオックスフォードのカレンダーにはハロウィン、万聖節、万霊節の 3 つが英語で載っていますが、最近ではこうした行事を掲載しないカレンダーも多くなっているそうです。フランスの一般的なカレンダーには万霊節と万聖節のみがフランス語で示されているそうです。

またドイツ南部のバイエルン州のカレンダーでは万聖節が祝日になっているそうですが、ドイツの全国的な祝日ではありません。10 月 31 日はルターの宗教改革記念日を祝う州もあるとかで、カトリックとプロテスタントが混在するドイツでは、州によってこれらの扱いやお祝いも違っているのだそうです。

さあ、仮装やお菓子で大盛り上がる日本のハロウィンでしたが、日本のカレンダーにはどのように記載されるのでしょうか。カタカナ？それとも英語？そして、ハロウィンを楽しむのなら、お盆も盛大にお祭りして盆踊りのみに興じるのではなく、先祖のお墓参りまできっちりするのがスジというものでしょう。

11月3日 1900年 ニューヨークで世界初の自動車ショーが開催されました。

現在では、アメリカで開催されるモーターショーといえば、デトロイトで毎年1月に開催される北米国際オートショーが有名です。かつてアメリカのモーターショーは実際に販売や商談の場という認識が強く、他モーターショーのようにコンセプトカーや新車の発表の場という意味合いが薄いところでした。

それまでロサンゼルス、デトロイト、ニューヨーク、シカゴで開催されていたものが、4つの中から一つを国際的なモーターショーにということで、デトロイトで開催されていたものを北米国際オートショーに決定したのです。

ニューヨークでモーターショーが開催された当時、アメリカにはおよそ4000台の自動車があったそうです。日本では、やっと国産自動車の開発が始まったところで、恐らく外国から輸入した自動車が100台ほどあったのではないかと考えられます。

現在モーターショーと言えば、東京モーターショー、フランクフルトモーターショー、北米国際オートショーが世界3大モーターショー、それに、サロン・アンテルナショナル・ド・ロト（ジュネーヴ・モーターショー）とモンディアル・ド・ロトモビル（パリモーターショー）を加え世界5大モーターショーと呼ばれています。

これらのモーターショーは国際自動車連合会が認定する都市において毎年、もしくは隔年で開催され世界各地の主要メーカーが集結して新車やコンセプトカーを展示する催しです。

ところで世界初の自動車の展示会と言えば、1894年に開催された「パリ〜ルーアン走行会」の成功に続いて、翌年6月6日〜20日にフランス自動車クラブがシャン・ド・マルスのギャルリー・ラップで開催したモーターショーとも言われています。

このときのポスターにはドレスの女性がうれしそうに車に乗っている絵柄でしたが、今でもモーターショーといえば、ピカピカの車にプロポーション抜群の美女が立っているのが定番のようです。最近の若者は、自動車にも恋人にも興味がないという人が増えているそうですが、さて今開催中の東京モーターショーでは、そういう人に向けたコンセプトカーが展示されているのでしょうか？

11月4日 2003年 1976年の観測開始以来最大の太陽フレアが発生しました。

太陽フレアは太陽の表面で起きている爆発現象のことで、その形がフレア（火炎）のように見えることから名づけられています。この爆発は太陽表面のうち比較的温度が低い黒点付近で、コロナが数千万度にも急に熱せられて明るく輝く現象です。

この太陽フレアが大きい場合、X線やガンマ線などとともに、加速された荷電粒子が大量に発生します。これらが地球に到達すると、電波障害の原因となるデリンジャー現象や磁気嵐、オーロラ嵐が起こるなどの影響があります。太陽嵐と言われる現象です。

太陽からは常に電磁波（紫外線、光（可視光線）、赤外線、電波）、磁場の波、粒子線、粒子などが放出されていますが、通常は地球の磁気圏や大気圏を通過する際にほとんどすべてが減衰してしまいます。

それでも磁気圏の薄い場所があれば、そこから大気に直接影響が及ぶことや間接的な影響があるようです。発電所や変電所などの電力施設が破壊されて停電したり、電波障害を起こし人工衛星、飛行機の無線などで通信不能になったりするようです。

近年では2015年3～6月で、普通では見られないところでオーロラが観測されました。特に電磁波による影響はなかったようです。2012年には地球には到達していませんが大きな太陽フレアがあったようです。

2003年のは、人工衛星や惑星探査機に影響があり、国際宇宙ステーションが念のため避難したほどでした。1989年はカナダのケベック州一帯で停電がおこりました。

太陽嵐は「太陽の津波」とも言える現象ですが、現在のように多くの衛星が地球の周りを飛び交い、地上でも通信網がはりめぐらされ、電気が欠かせない暮らしをしていると、もし影響があればそのダメージが大きい気がします。大きな太陽嵐の直撃はないのかもしれませんが、ちょっと心配ではあります。

11月5日 電報の日

電報を依頼する電話番号115にちなんでいます。

電報は、モールス符号の発明者として知られているアメリカ人S・F・B・モースが1837年に作製した電信機をもとにして、政府、報道、鉄道などの業務用として普及しました。グラハム・ベルが電話を発明するおよそ40年前のことです。

日本では1870年に東京―横浜間で政府により国内電報の取扱いが始まり、1871年には長崎―上海間および長崎―ウラジオストク間で国際電報の取扱いが始まりました。これはデンマークに本社のある大北(たいほく)電信会社によるものでした。

電報は、国家近代化に不可欠な通信網の一つとして開始から6年という短期間で全国へ普及しました。当時の電報サービスは、電話で文言を伝えるという形ではなく、郵便局に行き、「頼信紙」と呼ばれる紙にカタカナで電文を書いて申し込んでいました。

電話からの受付が開始されるのは1890年（明治23年）になります。ようやく、我々が一般的に知るところの「電報」というサービスの形が整いだしてきました。

電報事業は当初政府の直営でしたが、戦後日本電信電話公社と国際電信電話株式会社に移管され、現在でも、両社の後継会社のみが提供できるものとされています。

各家庭に電話が普及し、インターネットや携帯電話などの通信手段が充実してきた現在、電報と言えば、弔電

や結婚式、合格などの祝電など押し花やぬいぐるみのついた派手なメッセージとして認識されているようです。

かつては「ハハキトク カエレ」といった緊急に連絡が必要なときに送るのが電報でした。また、「サクラ サク」といった合格通知をもらったことがある人もおられるかもしれません。

初期の電報は、電気信号でモールス符号を送り、受信側では音の長短を文字や数字に翻訳して配達しました。その後、文字などに対応する穴をあけた紙テープを利用して電気信号を送る方式が登場しました。

電気信号を送る方法として最初は有線電気通信が使われましたが、のちには無線通信も使われるようになり、現在では同軸ケーブル、光ファイバー、衛星通信なども使われています。

ところで、1871年に日本でも国際電報のサービスが始まったそうですが、現在でも国際電報は送れるようです。しかし国によってはすでに電報のサービスを終了しているところもあり、現在電報が送れるのは240の国と地域となっています。

そして驚くべきは、その金額です。2015年10月1日に改正され、基本料3000円プラス1語（10文字まで）240円ということで、大体1通1万円は覚悟しなければなりません。それまで基本料がかからなかったことを思えば、相当な値上げのようです。

たとえばイギリスの植民地であったインドでは、日本より早い1850年に電報が導入されました。国土が広く固定電話の普及が遅れたこともあって、1985年の最盛期にはインド全国45,000カ所の電報局で年間6,000万件の電報のやりとりがあったそうです。

それが携帯電話の普及により電報の利用がなくなり、経営が行き詰ったことで2013年7月にインドから電報がなくなりました。

日本での電報の最盛期は1963年の9,461万通で、1972年までは一般の電報の方が慶弔よりも多かったそうです。日本で電報が生き残っているのは、明らかに冠婚葬祭などの慶弔の時に送られるからで、今でも年間1,000万の電報が送られているそうです。

さて、電報の利用が増えることがこれからあるかといえば、厳しい気がします。お祝いやお悔やみのメッセージとともにきれいな花（押し花）が送られてくるのは、悪くない習慣のように思います。いかにも日本人の発想ですね。

11月6日 1851年 チャールズ・ダウが生まれました。

ダウは、アメリカのコネチカット州スターリング生まれで、ハイスクールを中退した後、新聞記者になりました。主にニューヨーク証券取引所での相場に関する記事を担当しており、その経験から「株価は全ての事象を織り込む」というダウ理論を提唱しました。

1882年にはエドワード・ジョーンズやチャールズ・バークストレッサーと共にダウ・ジョーンズを設立し、手

書きの経済ニュースレターをウォール街の経済関係者に配布しました。このニュースレターはその後『ウォールストリート・ジャーナル』となります。

1896年にはニューヨーク証券取引所の株価動向を示す指標として同紙にダウ・ジョーンズ工業平均株価を掲載し、これは今日に至るまで証券関係者に幅広く活用されています。

そういえば、「ダウ平均株価」はニュースで耳にしたことがある言葉です。「ニューヨーク株価指数」「ニューヨークダウ」などと呼ばれているものもダウ平均株価で、これはダウ平均株価には、ダウ・ジョーンズ社によって選ばれたアメリカの主要な企業株価平均値のことです。

ダウ平均株価指数には、「ダウ工業株 30 種平均」、「ダウ輸送株 20 種平均」、「ダウ公共株 15 種平均」の 3 種がありますが、通常は工業株 30 種平均であることが多いそうです。

アメリカの主要な企業 30 社といっても、世界的な優良企業 でアップル アメリカン・エクスプレス ボーイング キャタピラー デュポン ウォルト・ディズニー・カンパニー アイ・ビー・エム インテル ジョンソン・エンド・ジョンソン ザ コカ・コーラ カンパニー マクドナルド スリーエム マイクロソフト ナイキ ファイザー プロクター・アンド・ギャンブル (P&G) ビザ エクソンモービル・・・とそうそうたる面々です。

主要企業の株価の平均値と言うと日経平均株価に似ています。これは、東京証券取引所第一部に上場する約 1700 銘柄の株式のうち日本経済新聞社が選定した 225 銘柄を対象にして、その 15 秒毎に算出し公表する株価の平均値のことです。日本の株価指標としては東証株価指数 (TOPIX) と並んで普及しています。

株価と言え、4 日に新規上場した日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険は日本郵政公開価格 1400 円) の初値は 1631 円、終値は 1760 円、ゆうちょ銀行 (公開価格 1450 円) の初値は 1680 円、終値は 1671 円、かんぽ生命保険 (公開価格 2200 円) の初値は 2929 円、終値は 3430 円のストップ高買い気配でした。

かんぽ生命がストップ高を付けると、他の銘柄を売って、郵政 3 社を買う動きが加速し、日経平均株価は急速に伸び悩み、結局、安値引けとなりました。こうした投資家の思惑や株価の動き、そして経済の仕組みに関して、殆ど理解できない経済オンチですから、ダウ平均株価という言葉も聞いたことはあるけれど意味は知りませんでした。

まあ、知らないことは経済だけに限ったことではありませんが・・・

11 月 7 日 1958 年ホープダイヤモンドがスミソニアン協会に寄贈されました。

「呪いのダイヤモンド」として世界で最も有名なホープダイヤモンドは紫外線を当てると、1 分以上に渡って赤い燐光を発する 45.50 カラットのブルー・ダイヤモンドです。不純物として含まれるホウ素が深い青色の原因だと考えられています。

「ホープダイヤモンド」の名は、銀行家のヘンリー・フィリップ・ホープがこのダイヤモンドを所有したことから名付けられたもので、彼が 1839 年に死んだ時、公開された財産目録に青いダイヤモンドがありました。

そもそもこのダイヤモンドは9世紀頃、インド南部のデカン高原にあるコーラルという町を流れる川で、農夫により発見されたと言われています。農夫はダイヤを渡すまいと、必死に握りしめていたため腕ごと切断されて奪われたそうです。

このダイヤモンドがなぜ呪いのダイヤとなったかといえば、ヒンドゥー教寺院に置かれた女神シータの彫像の目に嵌められていた2つのうちの1つを盗み、それに気づいた僧侶があらゆる持ち主に呪いをかけたからだとか。

その後、このダイヤが語られるのは1660年頃、フランス人ジャン＝バティスト・タヴェルニエ（Jean-Baptiste Tavernier）がダイヤを購入しました、そのときには112と3/16カラットあったそうです。これをフランス王ルイ14世がダイヤを購入し、カッティングして67と1/8カラットの宝石となりました。「王冠の青」あるいは「フランスの青（フレンチ・ブルー）」「ブルー・ダイヤモンド」と呼ばれた。このダイヤは王の儀典用スカーフに付けたそうです。

ルイ14世の愛人であったモンテスパン侯夫人や当時のフランスの大蔵卿だったニコラ・フーケの栄華からの転落にはじまり、ルイ16世やマリー・アントワネットの断首、フランス王室の宝物とされていましたが、その後フランス革命の時に盗難にあい、売り払われました。

ダイヤモンドは盗品であることを隠すために再カットしたオランダの職人は息子に殺され、ダイヤモンドを盗んで逃亡した息子も自殺してしまいます。この息子からダイヤモンドを買った男は餓死し、その後ホープダイヤモンドを買った宝石商は自殺したそうです。

またロシアの王子がこのダイヤモンドを手に入れ女優に与えましたが、嫉妬に狂って舞台の上の彼女を撃ち殺した後に自殺したなどとも言われています。ホープダイヤモンドは1820年にジョージ4世に売却され、1830年のジョージ4世の死とともにまた行方知れずとなりました。

1824年にはヘンリー・フィリップ・ホープの所有となり、その甥の一人に相続されました。ロンドンやパリの博覧会に展示されたこともあるそうです。1939年にホープが死亡し、やがてホープ家は破産してしまい、1901年にダイヤモンドは売却されました。

1909年には宝石商のピエール・カルティエが購入。後に、無色のダイヤモンドで周囲をとりまいたゴージャスなネックレスに仕立て、ワシントン・ポストのオーナーの義理の娘エヴァリン・ウォルシュ・マククリーン夫人にこれを売却します。このすぐ後にマククリーン家では息子が車の事故で死亡、夫はほかの女に走って金銭を浪費し、療養所で死にました。

1946年、25歳の娘が睡眠薬の過剰摂取で死にましたが、夫人は意地でもホープダイヤモンドを手放そうともしませんでした。彼女が1947年に亡くなると、残されたホープダイヤをハリー・ウィンストンが約18万ドルで購入し、このダイヤモンドは呪いのエピソードをまとわりつかせたまま、1958年にスミソニアン自然史博物館に寄贈されたのです。

ホープダイヤモンドは持ち主を不幸にするという「呪い」の話は、1900年初頭に新聞が好んで書いたためにひ

るまったものようです。こうした話題に人々は興味深々で、挙句尾ひれがつき、このダイヤモンドを神秘的なものにしているようです。大方の話は作り話のようですが。

11月8日 1519年スペインの探検家エルナン・コルテスがアステカ帝国の首都テノチティトランに進軍し、メキシコ征

服を開始しました。

アステカとは、民族の発祥地アストランからきていると言われていています。ウィツィロポチトリ神がアステカの人びとに「サボテンに鷲が止まった場所」を都に定めよと予言が下り、1325年にテスココ湖周辺にやってきましたと伝えられています。

その後アステカ族はメキシコ高原で力を持ち、強敵アスカポツアルコを滅ぼし国家を成立させました。都をテノチティトラン（現在のメキシコシティ）に建設しました。アステカ人はまたの名をメシカ人ともいい、都の置かれた場所をメシコ・テノチティトランとも呼びました。

メキシコの国名はこのメシコということばに由来するそうです。語源は太陽と戦いの神ウィツィロポチトリの別名メソトリであるため、メキシコは「太陽の国」と呼ばれることがあります。

アステカの首都テノチティトランは、歴史上、最も壮麗な都市だったと伝えられています。破壊したスペイン人が、「訪れた都市の中ではテノチティトランが一番素晴らしい」と証言しているからなのですが、スペイン人の中には、ヴェネツィアやコンスタンティノポリスを訪れた者もいたそうですから、それと比べても素晴らしいということのようです。

帝都テノチティトランは、テスココ湖の孤島に築かれ、島と陸地は3本の道路で結ばれていました。町中には無数の水路がはりめぐらされ、町のどこへでもカヌーで行くことができたそうです。全盛期には20万~30万人の人が暮らし、テスココ湖底の養分豊富な土で主食のトウモロコシをはじめ、イモ、豆などを大量に生産していたようです。

都のテノチティトランは政治だけでなく、宗教と商業の中心でもあり、階段が114段もあるピラミッドの元では市場が開かれ、毎日数千人が集まったそうです。

それほどにも栄えた国でしたが、征服者エルナン・コルテスの率いるスペイン軍は、兵士600人、馬16頭、大砲10門、火縄銃13丁で、2万のアステカ軍を殲滅したと言われていています。実際はコルテスが出発したときは600人だったが、帝都テノチティトランの最終決戦では、先住部族数万を味方につけていたというのが本当のところだそうです。

アステカの最後の王様であるクアウテモク王が捕らえられ帝国が滅ぶと、スペイン人は金銀財宝を略奪し尽くし、都テノチティトランを破壊し、テスココ湖もろとも埋め立てました。その上に建設されたのが現在のメキシコシティなので、メキシコシティの地下には貴重な考古学遺跡が眠っていると考えられています。

スペイン人は本国からささいな疫病を持ち込みました。普通なら免疫があるものですが、アステカ人には免疫がなく先住民の人口は 1100 万人から 100 万人に激減したそうです。

ところで、アステカ、マヤ、インカといった中南米（メソアメリカ）から南米にかけての文明国家は、16 世紀に相次いでスペイン人によって滅ぼされています。これらの国はお互いに交易していたと考えられていますが、複雑な暦を使い、滅亡の予言を持ち、生贄の儀式をするという共通点もあるので、なにか似通った印象があります。

メキシコは 19 世紀になってスペインから独立しましたが、もちろんアステカなど先住民の生き残りが独立したわけではなく、本国に反旗を翻したスペイン人による独立でした。植民地からの独立とはいえ、南中北アメリカとも移住民が本国からの独立を果たしたのであって、アジアやアフリカが先住民の独立を果たしたのとは決定的に違っていました。

それでもメキシコの国旗や国章にはサボテンに乗る鷲のアステカ由来の絵柄が描かれているのが、興味深いですね。

11 月 9 日 1965 年北アメリカで大規模な停電が occurred。

この停電はニューヨークを中心に 2500 万人と 207,000 km²の地域で 12 時間、電気が供給されない状態となりました。原因は暖房などの使用率が大幅に上がったことと、ナイアガラ地域の発電所のシステムの構築状態に不具合があったためと考えられています。

1965 年と言えば、50 年も昔のことだからシステムにしても不備があっただろうし、それほど電気に依存した暮らしでもなかったのでは・・・と思う人もいるかもしれませんが、アメリカではその後 1977 年、2003 年と歴史に残る大規模停電が起こっています。

2003 年の停電ではアメリカ 4000 万人、カナダ 1000 万人の計 5000 万人が被害を受け、金融赤字は 60 億ドル(約 7000 億円)にも上ったと言われています。このときは真夏だったためエアコンや扇風機が使用できず、死者も出たようです。

少し古い数字ではありますが、2001-2002 年における一般家庭の年間平均停電時間は、アメリカ 73 分、イギリス 63 分、フランス 57 分、日本 9 分だそうです。現在の日本は先進国の中でも突出して電力供給が安定しているので、こうした大規模停電はあまり経験がありませんが、自然災害を原因とする停電は起こりうるでしょう。

停電になれば、電灯をはじめ冷蔵庫、テレビと電気製品がつかえないのは当然ですが、こんな機器も電気がなければ動かないのかと気付くものもあります。たとえば便座。水洗が使えないこともあるようです。手動で流せる仕組みもあるようなので、いざと言うときのために知っておく必要がありそうです。

灯油のファンヒーターやガスボイラーも停電していると使えないとか、電気がなければ暮らしが立ち行かなくなっています。最近は太陽パネルで自家発電していると言う方もおられるかもしれませんが、そうでない人はせめてロウソクぐらい用意しておかなければならないですね。

停電が解消したあと家中の電気製品がリセットされて、液晶パネルが点滅しているのもうんざりですが、電気のない暮らしが考えられないし、電気供給が安定している日本にいらしていること、ありがたいことです。

懐中電灯に水を入れたペットボトルをかざすと明るさが増すそうです。LEDライトだとより効果的なのとか。ちょっとしておくといひ知恵です。

11月10日 技能の日

1970年の11月10日に、アジア初の技能五輪が日本で開催されたことを記念して労働省が1971年に制定しました。

当時は正式名を国際職業訓練競技会と言っていたましたが、2007年から国際技能競技大会と称し、2年に一度、ワールドスキルズインターナショナルによって開催される技能労働者の技能を競う大会です。もちろん技能を競う大会ではありますが、参加国の職業訓練の振興と参加者の国際親善・交流を目的としているところは、本家五輪と似ています。

国際技能競技大会は1950年にスペインで始まり、日本は1962年の第11回大会から参加しています。今までに日本では1970年の第19回大会（東京・千葉）、1985年の第28回大会（大阪）、2007年の第39回大会（静岡・）の3回開催されました。

22歳（一部種目で25歳）以下の若者が、「溶接」「移動式ロボット」「車体塗装」といったものづくり系の種目のほか、「洋裁」「洋菓子製造」「介護」など、50種目を競います。今年8月に開催された43回目となるサンパウロ大会には、日本を含めた59か国・地域の1,189名の選手が参加しました。

国際技能競技大会は2年に1回の開催ですが、国内では毎年11月に技能五輪全国大会（青年技能者技能競技大会）が行われています。国際大会開催の前年の全国大会は、国際大会への派遣選手選考会をかねています。

技能五輪全国大会は国際大会に初参加した翌年1963年から開催されており、青年に対して技能者としての努力目標を与え、大会の開催地域の若者に対して優れた技能に触れる機会を提供すること、技能の重要性、必要性をアピールして技能尊重の機運の醸成を図ることを目的としています。

ところで今年のサンパウロ大会ではトヨタ自動車、デンソー、きんでの選手が計5個の金メダルを獲得しました。これは韓国12個、ブラジル11個に次いで世界3位です。2005年、2007年には金メダル獲得数1位の快挙をなしています。

ものづくりには誇りをもっている日本で、若い人が頑張っているのは本当に頼もしいことです。技術は次世代に継承されていかなければなりませんし、ましてや品質の良いものを作ろうという意気込み、努力は一朝一夕に出来るものではありません。

今放送中のドラマ「下町ロケット」では、中小企業でありながら高い技術をもった町工場が登場していますが、高い品質の製品は単に技術だけではなく、チームワークや社員みんなの意識の高さがあってのことだと痛感させられます。

国際技能競技大会で良い成績を上げられるということは、本人の努力もさることながらそれを指導する人や、周りのサポートなどチームワークもあるのだろうと想像します。技能に限らずスポーツでも、優勝した人のインタビューでは、異口同音に支えてくれた人に感謝の言葉がありますが、さもありませんと思います。

11月11日 1995年 世界最大のニュートリノ観測装置スーパーカミオカンデが完成しました。

スーパーカミオカンデは、岐阜県飛騨市神岡町のかつての神岡鉱山内に設置された東京大学宇宙線研究所が運用する世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置です。観測は翌年の4月から始まり、それ以前のカミオカンデより任務を引き継いでいます。

先ごろ、ニュートリノ振動の発見によりノーベル賞を受賞した梶田隆章氏や2002年に史上初めて自然に発生したニュートリノの観測に成功しノーベル賞を受賞した小柴昌俊氏によって耳にした、カミオカンデ、スーパーカミオカンデです。神岡にあるのでカミオカは、分かるにしても、その後のンデは何？って感じですが、**Kamioka Nucleon Decay Experiment**（神岡核子崩壊実験）、また小柴氏によると **Kamioka Neutrino Detection Experiment**（神岡ニュートリノ検出実験）という意味があるそうです。

小柴氏がノーベル賞を受賞したときに盛んに解説されていたニュートリノですが、言語としては理解できても、どうもよく分からなくて、ん〜物理学って難しいものだってことで終わってしまうのですが、つまりニュートリノは「見えず」「触れない」が、宇宙には数多く存在し、たとえば太陽から放射されるニュートリノは一秒間に100兆個もの数が我々の体を突き抜けているごくごく小さなモノらしいです。

我々の体をつくる素粒子は、突き詰めていくと、結局はアップクォークとダウンクォークと電子になるらしいのですが、それ以外にニュートリノが存在していて、物質の粒子なのに現実の物質を作らないし、電気的な抵抗もないので何でも通り抜けるというオバケのような物質とされています。

まだまだ、よく分からない物質なのでこれを研究してどうなるか分からないらしいのですが、何でも通り抜けるという性質から、普通では見えないものの内部を調べることに使えるのではないかと考えられているようです。

スーパーカミオカンデは、50,000トンの超純水を蓄えた直径40m、深さ41.4mのタンクと、その内部に設置した11,200本の光電子増倍管を備えた巨大な装置で、目に見えない小さな物質を観測しているというのが、本当に不思議です。

2025年の完成予定で、スーパーカミオカンデの20倍の規模（タンク体積100万トン）になるハイパーカミオカンデの建設も検討中だそうです。ニュートリノの研究は日本は世界トップクラスだそうです。ニュートリノの話は、大きい話なのか小さい話なのか分からないですね。人の体を構成する物質を極めていくことと宇宙の果てを目指すことは、なんだか似ています。

11月12日 1911年 チャド・ヴァラーが生まれました。

エドワード・チャド・ヴァラーは、イングランド国教会の司祭で自殺予防のための電話相談「サマリタンズ」を1953年に設立者として知られています。「サマリタンズ」は少女の自殺がきっかけとなって始まったボランティア団体です。

このサマリタンズはサマリア人という意味を持ちます。聖書でサマリア人といえば、ユダヤ人からはイスラエル人の血を穢した者といわれ、正統信仰から外れた者達とみなされて嫌われた人々でしたが新約聖書には「善きサマリア人」と言えば『ルカによる福音書』第10章第26～37節。で書かれているように、自分が不利益を被るリスクを顧みず人助けをするということだそうです。

自殺予防のための電話相談は世界各国に広まっていき、ドイツでは1956年からテレフォン・ゼーレゾルゲ、1964年からはオーストラリアでライフライン、イタリアでテレフォノ・アミーコが活動を始めました。

国際組織として1967年にイフォーテスが創設され、現在では70ヶ国を超える国や地域で自殺防止の電話による相談が行われているそうです。

日本ではドイツ人の女性宣教師ルツ・ヘットキャンプの提唱で1971年に設立された「東京いのちの電話」が最初の活動で、1973年には厚生省より社会福祉法人に認可されました。

1977年には日本いのちの電話連盟が結成されて各都道府県で活動しています。岡山の「いのちの電話」は1984年から活動していて、年間に2万件もの電話相談を365日24時間休むことなく受け付けています。

この「いのちの電話」は孤独の中にあって、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とした活動です。お互いの価値観を尊重しつつ精神的・情緒的に成長し、共に問題解決のために対話を深めていくことを目指すそうです。

所定の講習や審査を受けた人がボランティアで相談を受けており、岡山にはおよそ250人の人が活動しているそうです。手弁当のボランティアのようで、講習を受けるのも講習料やそれに伴う宿泊料も払って参加するようです。

幸いにも、今まで自殺したくなるような悩みがなくて、「いのちの電話」という言葉は耳にしたことはありましたが、実際に利用したこともなく、その活動も詳しく知りませんでしたが、こうした地道なボランティア活動は悩む人により沿いながら解決することもさることながら、それにより自らも高めたいと考えなければ、続かないことだろうと思います。

11月13日 集団遺伝学者の木村資生氏が生まれました。

木村資生氏は1968年に中立進化説を提唱し、日本人で初めてダーウィン・メダルを受賞しました。

チャールズ・ダーウィンの自然選択説とグレゴール・ヨハン・メンデルの遺伝法則の融合で生まれたのが集団的遺伝学という分野で、生物集団内における遺伝子の構成・頻度の変化に関する学問が集団遺伝学です。

とはいえ、何のことかよく分からないのですが、進化と遺伝を確率論や統計学などの数学的手法を用いて研究するのだそうです。そして、デオキシリボ核酸（DNA）の二重らせん構造が解明され分子生物学の発展に従って、木村氏がたどり着いたのが「中立進化説」です。

進化と言えば、生物集団の中では、突然変異などが原因で形質のバリエーションが増え、その中から環境的に有利な形質は優先して子孫を残し、不利な形質は子孫を残せないという「自然選択説」がよく知られています。

しかし、「中立進化説」は分子レベルでの突然変異は殆どが中立的であり、有利でもなく不利でもない中立だという考え方です。

一見矛盾するような「自然選択説」と「中立進化説」ですが、どちらも相反するものではなく、共存可能な理論として受け入れられています。どんな生物でも環境的に有利な形質が生き残っているのは理解しやすい現象ですが、それを分子レベルで考えると、特に自然淘汰のようなことは起きていないと言うことでしょうか。

「自然選択説」は遺伝子レベルで起こるのではなく、別の要因が関わってくるということ・・・？

これからは、病気を治すのでもDNAのレベルで治療したり、予防したりするようになるかもしれないのですよね。神の領域と考えられている遺伝子操作も、もしかすると意外な突破口があって、当たり前に行われるようになる時代がくるのかもしれない。

11月14日 1907年 アストリッド・リンドグレーンが生まれました。

「長くつ下のピッピ」をはじめ数多くの児童文学作品の作家として知られているリンドグレーンはスウェーデン生まれで、こどもの頃は小さな牧場育ちました。その経験が作品にも色濃く表れています。

1945年に書かれた「長くつ下のピッピ」で一躍有名になり、世界各国で翻訳されましたが、もともとこれは彼女の小さかった娘カーリンのために考えたお話だそうです。

赤毛のツインテールにそばかすだらけの顔、そして長い靴下を穿いている9歳の少女ピッピは船を家に海で育ち、怪力とホラ吹きが得意な天衣無縫の自然児です。でも本当はとてもかわいらしくやさしい子供で、多くの人に愛されながらいろいろな冒険をしていくお話です。

「長くつ下のピッピ」シリーズは全世界で1億3000万部以上も出版され大勢の子供たちに読まれました。「ピッピ 船に乗る」「ピッピ 南の島へ」と3部作になっていますので、読んだことのある人もおられることでしょう。映画やミュージカルにもなっているので、そちらも見たことがあるかもしれません。

リンドグレーンは1958年には青少年のための文学作品に与えられる国際アンデルセン賞を受賞しました。また子どもの権利や動物の権利の擁護者としても知られています。

「長くつ下のピッピ」のほかにも、「やかまし村シリーズ」「カッレくんシリーズ」など多くの作品があります。昨年NHKで放送された『山賊のむすめローニャ』もリンドグレーンの作品です。多くの作品が時代や国境を越えて読み継がれているのですね。

子供の頃に読んだ「長くつ下のピッピ」のことを思い出しました。読み始めは、自分とはあまりに違い、元気で天真爛漫なところについていけない気がしましたが、読み進むにつれ引き込まれていく感じで、最後には楽しくて、シリーズの次を読みたくなかったのを思い出しました。

11月15日 1988年 パレスチナ民族評議会で独立国家パレスチナ国が独立を宣言しました。

とはいえ独立を承認したのは国際連合加盟国（193ヶ国）のうち135ヶ国にとどまります。承認している国では、パレスチナ国と呼ばれますが、それ以外の国ではパレスチナ自治政府と呼ばれています。

パレスチナを国家と承認しない国の中でも、国連での資格を「オブザーバー国家」と承認する国が25ヶ国あり、日本もそのうちの1国です。

1993年にはイスラエルとパレスチナの間で一定の地域でパレスチナの自治を認めるオスロ合意が締結されましたが、いまだに正確な国境もなく住民間でのいさかきも絶えない状況が続いています。

イスラエルが首都と主張するエルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三つの宗教の聖地で、それぞれの信者が巡礼などで訪れる場所でもあります。

日本からは離れていることもあって中東の問題は分かりにくいのですが、日本政府の立ち位置ぐらいは把握しておかなければと思います。

この地域は、聖書で「乳と蜜の流れる場所」と描写され、神がアブラハムの子孫に与えると約束した土地、そして昔から文明が起こって発展した地域で多くの民族がこの地に暮らしていました。おそらく、住みよかったのだらうと思います。

それなのに、紛争が絶えないというのは、神様も罪な約束をしたというのか、愚かな人間の欲望なのか・・・

11月16日 1878年 東京大学のお雇い外国人教師ジェームズ・ユーイングが日本初の録音・再生の実験を行いました。

それを記念して日本記録メディア工業会が、録音文化の日に制定しましたが、日本記録メディア工業会は2013年3月末で解散しています。この日本記録メディア工業会は1953年に磁気録音テープ工業協会として発足し、初代理事長は盛田昭夫が務めました。

磁気録音テープ工業会は録音、録画、情報処理用の記録メディアの製造事業を営む法人を正会員とし、記録

メディアに関する調査研究、普及啓発、規格及び基準の立案を行うことを目的としていました。

磁気テープから光磁気、光ディスクと媒体が変わっていき、会ではメモリーカードに至るまでを対象商品としていましたが、ネットワーク技術とクラウド技術の発展に伴い、リムーバブルな記録メディアの相対的な位置づけが極めて低下してきたため、国の産業発展や国民生活向上に資するという目的が達成されたとして解散に及んだようです。

考えてみれば、かつて音楽と言えばレコードで聞いていましたが、気軽に楽しむためにカセットテープが普及しました。また動画は8ミリビデオからカセットのビデオテープが普及しました。そのうちCDが普及してきました。

パソコンのデータも最初はフロッピーディスクでしたが、そのうちデータ容量の大きいMOが登場し、そしてCDが廉価になって使われるようになりました。それが、最近ではメールで容量の大きいデータが送れるようになり、CDさえ滅多に使わなくなりました。

日本記録メディア工業会が解散した2013年でも、DVDは全世界では3億5,700万枚、CDとDVDは9億1,400万枚も売られていましたので、随分早くに解散したと感じます。

音楽も最近では、CDを購入するのではなくダウンロードで入手する人が多くなったそうですが、CDをかけて聞くこともなくなったわけではないようです。驚いたことに、再びレコードが見直されているという話も聞きました。

音楽を聴こうとして、機材を用意し、媒体を選んで、ケースから出し、セットしてスイッチを入れると、ちょっとした間があって音楽が始まる・・・まるで一連の儀式のような流れが、心を落ち着かせ、音楽を楽しむ気分を高めるのです。儀式は大きさであればあるほど効果的な気がします。

レンタルのビデオ屋でも、検索で見たいビデオが探せるのもいいけれど、棚に並んでいるのを左から右に目的もなく眺めながら見たい映画を探すのも悪くないです。レーベルの色や書体、写真などからどんな内容なのか想像するのも楽しいです。

全てがクラウドやネットワークになってしまうと、寂しい気がするの、昔ながらのアナログ人間だけでしょうか。

11月17日 蓮根の日

1994年に茨城県土浦市で全国の蓮根産地が集まって「蓮根サミット」が開催されたのを記念して 蓮根の日が制定されました。

レンコンはハスの根でその原産地はインド、そこから中国にわたり、2000年以上前に中国から日本に渡ってきたといわれています。インドでは、釈迦生誕の折に麻耶夫人のまわりに五色のレンコンの花が降りそそいだというように、仏教とハスは切っても切れない関係です。また中国ではハスの清楚な花を美しい女性にたとえ、

文人墨客に愛好されました。

日本では、古事記に雄略天皇のころに美しい花として意識していたことが残されています。また常陸風土記には池のレンコンを食するくだりがあり、当時の茨城県をはじめ国内にはレンコンが広く分布していたようです。

常陸風土記に「神世に、天より流れ来たりし水沼なり。生ふる所の蓮根は、味わいとことに、うまきこと他し所に絶れたり。病ある者、この沼の蓮を食へば早く差えて験あり」とあることから、今と変わらずれんこんはおいしい上に病気が早く治るといふ薬膳の効果があると考えられていたようです。

レンコンには増血作用があり、病弱な人に栄養をつけさせる食べ物と考えられていました。野菜に含まれることが少ないビタミン B12 を含んでいて、これは鉄分の吸収を助ける働きをします。またミネラルが豊富でカリウムや鉄、銅、亜鉛を多く含んでいますので、確かに病気が治るのかもしれませんが。

江戸時代になると、花バスとして鑑賞する愛好家が増え、数十種もの品種が出現しました。また元禄のころにはインゲンマメで有名な僧隠元等によって花バスの全盛期を迎えたそうです。

また食用のレンコンについては、宮崎安貞著の農業全書（1696年）や佐藤信淵の草木六部の耕種法（1832年）に詳しく栽培法が記述されています。

ところでレンコンは古くからの在来種と明治以降からの中国種に大別されます。栽培の主な品種は支那種、備中種、朝鮮種、早生種、愛知種などがあります。

在来種は細長く、茶色がかった色をしており、中国種より粘り気があります。地下茎が深く収穫量が少ないので、観賞用などで栽培されたりしています。天王、上総等の品種があります。

中国種はふっくらとしていて、肉厚でシャキシャキしているのが特長です。地下茎が浅く、病気に強い。備中、支那などの品種があります。ところで岡山県人としては見逃せない「備中種」ですが、これは明治の初期に長崎に渡来し、岡山県が基点となり、備中種と呼ばれて各地に移動・伝播したようです。

岡山県のれんこん収穫量は 2050 トンで全国順位第 7 位（H20 年データ）、中でも一番生産量が多いのは倉敷市連島で主な品種は、備中種、支那白花種です。出荷量では土浦市が 1 位、徳島県鳴門市が 2 位、愛知県愛西市が 3 位だそうです。

レンコンは切り口が空気に触れるとポリフェノール化合物が酵素によって酸化されるために黒ずみがでますので、皮をむいたらすぐに水につけます。酢水につけるとより白く綺麗に仕上がりに、茹でる時も酢を少量いれると白くきれいにゆであがります。

金属製の鍋はレンコンが変色し、色がくすんでしまうので使わない方がよいようです。身がしまった根元は煮物に、歯ごたえある真中の部分は天ぷらやフライものに、先端は軟らかいのできんぴらやサラダにしたらいよいようです。

油との相性がよいので、揚げ物、炒め物に向き、また粘りがあるのですりおろして団子などにすることも出来ます。

精進料理のイメージがあるレンコンですが、体に良い食品のようです。栄養分析などしなくても、そういう効果がわかっていたのですね。まさに医食同源です。

11月18日 土木の日

1879年11月18日に日本工学会の前身である工学会が設立されたことと、「土木」の「土」が十一に、「木」が十八にそれぞれ分解できることに由来しており、1987年に制定されました。

土木の言葉の起源は 中国の漢代の書『淮南子』から来ていると言われています。その中にある汜濫訓の一節に「聖人乃作為之築土構木」とあり、この一節から「土木」の名が生まれたそうです。

奈良時代に書かれた『日本書紀』に橋や堤をつくる様子が描かれていますが「土木」という言葉がいつごろから使われたかは定かではありません。それでも鴨長明が記した『方丈記』には、都づくりをする様を表すのに「土木」という言葉が使われています。

土木の仕事や役割について国民に知ってもらうために制定されたものですが、よく耳にする土木という言葉ではありますが、土木に携わる人以外、その定義や内容を十分に把握できているでしょうか。

辞書を引けば、「建築を除く道路・鉄道・河川・橋梁・港湾などの、土石・木材・鉄材などを使ってする建設工事のこと」と記載されています。

土木についてよく分かるように書かれているのが、土木科を持つ高校の学校説明のサイトで、「都市計画、環境保全、そして地震や津波などに対する 防災など、私たちの生活を守る多くの技術」と書かれています。

それって、とても大切な仕事だと言うことが分かります。高校でどんなことを学ぶのかと言えば、測量実習をはじめとして、土質試験などの実験実習、構造力学、土質力学、水の流れや力を知る水理学、製図や小型車両系建設機械や小型移動式クレーン等の免許取得など、なかなか難しそうです。

なるほど、土木は私たちの暮らしを支えるインフラ整備をはじめ、安全、快適な暮らしのために大切な技術であり、工事そのものです。昔から治水や干拓など行われてきましたが、それも土木。また近代化に伴い長い線路を敷設したり、トンネルを掘削したり、電気を起こすためのダム工事、これも土木。そして身近でも道路工事、下水道工事、地下埋設工事、日々土木工事は行われていました！

土木工事というのは、多くが国や自治体が行い、また様々な技術が必要なので、それぞれの専門家が力を集結して行います。重機を使い危険も伴います。みんなに土木について理解して欲しいというのも、それなりに理由があるようです。

アイドルグループが無人島を開拓するテレビ番組で、アーチの石橋を造るのを見ました。昔から行われてきた

技術で、じつに良く出来た方法なのだと感じました。このように土木の分野でも多くの蓄積された技術があるのだらうと思います。

先ごろ発覚したマンションの杭打ちデータの不備、流用問題は建築の範疇ですが、データの数値ではなく、本当に安全でしっかりした構造物を造る、モノを作る技術者のプライドの問題でしょう。

大きな工事であればあるほど、ほんの小さな瑕疵が大きな事故につながる可能性がありますから。

11月19日 世界トイレの日

2011年11月19日に、シンガポールで世界トイレ機関（WTO）が創設され「世界トイレサミット」が開催されたことを記念し、WTOの呼びかけの下、2012年国連総会が毎年11月19日を国連「世界トイレの日」と制定しました。

水洗トイレの普及率が9割になる日本に暮らしていれば、「世界トイレの日」と聞いて、どんな快適なトイレを探求する日なのかなと思ってしまいます。

しかし先日の国連発表では、世界で24億人がいまだに適切な公衆衛生にアクセスできていないほか、10億人以上が屋外で排便せざるを得ない状況にあり、病気その他のリスクを抱えているとのことでした。

こうした不衛生な状況では、80万人以上の5歳に満たない子どもたちが下痢で命を落とし、また女性の場合は安全なトイレを利用できないことで恥ずかしくて学校に行けないとか暴行の原因になったりするそうです。

と言うのも、村によっては住居地域から離れた茂みを公共の排泄場所を決めているのですが、そこへ女性が一人でやってくるのを暴漢が狙っているというのです。ですからなるべく排泄の回数を減らすようにお腹が減っても食べ物を摂らないようにするのだそうです。また学校に安全なトイレがない地域もあるのだそうです。

ユニセフの取り組みを見てみれば、衛生的なトイレを使える人の割合は1990年に49%でしたが、2015年の時点で68%まで向上しました。暖かい便座で、お尻まで洗える快適なトイレが当たり前でないことを痛感します。

日常生活では気にも留めないトイレ問題ですが、災害が起これば一番に困るのがトイレです。排泄物が適切に処理されなければ、悪臭や害虫、ばい菌などで不衛生になり健康に悪影響を及ぼします。そうやって初めてトイレの大切さに気がきます。快適なトイレを使えることはありがたいことだと理解しておかなければなりませんね。

11月20日 ピザの日

1995年にピザをイタリア文化のシンボルとしてPRする日として凸版印刷が制定しました。ピザの原型であるピッツァ・マルゲリータ誕生に関係した、ウンベルト1世の妻・マルゲリータの誕生日であることに由来しま

す。

なぜ印刷会社が制定した記念日なのか不思議ですが、イタ飯という言葉が流行ったのも1990年代で、ティラミスブームに続いてファッションや家具などイタリア風のデザインが世界的にブームとなっていた頃です。

恐らく、何か広告的戦略があってイタ飯→ピザなんて図式が見えてきそうです。1990年頃と言えばトレンドードラマ、ワンレン、ボディコンと華やかなものが流行しました。堅苦しいフランス料理ではなく、庶民的なイタリア料理ということでイタ飯も流行ったようです。

それでも「イタ飯」という略語の作り方・・・なんだか変です。

ピザは発酵させた生地の上にいろいろな具材をのせチーズをかけて焼いた食べ物で、冷凍食品や宅配などでもおなじみの食べ物です。パンと同様に発酵させて焼くもので、そのルーツをたどれば、かなり古い時代まで遡ることが出来るようです。

古代イランアケメネス朝の王ダレイオス1世(521-486 B.C.)は、表面をチーズとナツメヤシで覆ったパンを焼かせたとか、紀元前1世紀、古代ローマの詩人ウェルギリウスは叙事詩『アエネイス』の中で、アスカニオスが食器代わりの平パンを食べる様子を描写したりしています。まさにピザの原型です。

ピザといえばイタリアですが、エジプトで始まったとする説もあるようです。今のようなピザになったのは、16世紀に新大陸からトマトがもたらされてからです。原産地インカでトマトは栽培されていましたが、ヨーロッパでは有毒植物ベラドンナと形が似ていたため、当初は食品としての人気はなく、もっぱら観賞植物として育てられていたそうです。

しかしインカと同様にスペイン領だったナポリでは、18世紀後半までには貧しい人々がトマトをパンに乗せる具として使い始めそのうちに観光客に対する名物料理となっていきました。

1880年創業のピザ専門店ラファエレ・エスポジトはイタリア王ウンベルト1世と王妃マルゲリータに3種のピザを献上しました。王妃はイタリア国旗を思わせる緑(バジリコ)、白(モッツァレッチャチーズ)、赤(トマト)で彩られたピザを気に入り、ナポリピッツァ・マルゲリータの名はこれに由来するそうです。

日本におけるピザは、1944年に神戸に着いたイタリア海軍の特務艦カリテア号の、乗組員がレストランを開いて焼いたのがはじめだとも、戦後宝塚にできたイタリア人の料理店「アペーラ」だとも言われています。

戦後、日本にやって来たアメリカの進駐軍とともに、アメリカのピザが入ってきて日本に広まっていきました。日本で初めての宅配ピザ店“ドミノ・ピザ”恵比寿店が誕生したのは1985年のことです。

のっている具材で多くの種類があるのは、ご存知の通りです。スパゲティーも同じように具材の違いで名前がいろいろありますが、日本のうどんものっている具材で多くの種類があるのと同じでしょうか。

具材だけでなく形状や食べ方まで、様々に変化させ人々に愛されてきたイタリア人のソールフードなのでしょうね。いや、もはや世界中で愛される食べ物です。

11月21日 1844年（天保15年10月12日）馬越恭平氏が生まれました。

岡山県出身で「東洋のビール王」と呼ばれた人物です。馬越氏は井原市木之子町西郷で代々続く医者の家系に生まれ、8歳にして興讓館で学びました。

13歳の時母方の叔父に当たる播磨屋仁平衛の世話で大阪に出て、鴻池家で丁稚奉公して働き商才を発揮していききました。二年後、仁平衛は恭平を養子に迎え入れました。

播磨屋は徳川時代から諸大名の金銭の用達を務める商家で、維新後は公事宿を営んでいました。幕末で各藩が軍費を調達するのに乗じて、恭平は金銭を貸し付けて大阪の同業者のトップにのし上がりました。

29歳の時、後の三井物産社長となる益田孝氏に出会い、益田氏から欧米に留学したときの体験や経済の新知識、世界経済について大きな影響を受けました。益田氏は「セルフ・ヘルプ」（西国立志編）を読むように勧め、これを読んだ恭平は感激して生涯の座右の書としたそうです。

どうしても東京に出たいと考えた恭平は、妻子と別れ播磨屋をでました。益田氏を頼って上京し井上馨の先収会社に入社、1876年先収社解散後、その事業を引き継いだ三井物産に入社しました。

西南戦争が勃発すると、三井物産は官軍の軍需品の供給を一手に引き受け、馬越氏は戦地に乗り込んで陣頭指揮し五十万円という巨利を上げました。1880年には横浜支店支配人となり、生糸の輸出や海外貿易を行いました。横浜生糸荷預所を設立し、生糸をわが国の輸出品の第一位にのし上げました。

1891年48歳の時に「恵比寿ビール」のブランドを持つ日本麦酒の経営再建を託されました。「ビールの売り込みは四者に集中すべし」と号令した。四者とは学者、医者、役者、芸者のことで、世のインテリや有名人に集中して無料試飲会などを開いて、大いに宣伝してビールを売り込み、そこから多数の一般消費者への浸透を図っていきました。

新年の初荷では「エビスビール」と染め抜いたはんてんを社員に着せて、町中を練り歩かせた。工場見学会を開いて、何千人も招待して、アノ手コノ手の宣伝、PRを繰り返しました。駅の名前に恵比寿とするよう働きかけビアホールをはじめて開いたのも馬越のアイデアだと言われています。

白い前掛け姿のウエイトレスに客はジョッキを傾ける、それを銀プラ族が窓越しに眺める、といった当時、最先端をいくショウウィンドーとファッションによってビールを大いに宣伝しました。ビアホールは一躍東京の新名所となりました。

1901年清国との外交問題などの影響で軍備増強を目的に「麦酒税」が導入されました。その為、ビール業界間で競争・再編成の波が起こりました。小さい醸造所が姿を消し、日本麦酒、大阪麦酒、札幌麦酒が合併して「大日本麦酒株式会社」が誕生しました。

馬越はその社長に就任しました。三社合併によって大日本麦酒は国内シェアは72%となり、麒麟麦酒の20%を

はるかに凌駕し東洋一の地位を獲得しました。1909 年年には馬越は同社の株主に十割の記念配当を出して世間をアッと驚かせました。馬越は「日本のビール王」から「東洋一のビール王」と呼ばれました。

総理大臣となった原敬とも親交が深く、大切な密書を託されたこともあったそうです。馬越は豪放らいらくで人柄がよかったそうで、人をだますとか策略を用いなかった原とは気心が合ったようです。子供の頃興譲館で学んだとき『朗廬より「正直」の二字を教わった』と彼が晩年にいたってよく口にしていたそうですから、生涯それを守っていたのでしょう。

11 月 22 日 1929 年 近鉄花園ラグビー場の開場式が行われました。

ラグビーは、先ごろワールドカップで日本チームが活躍したことで、すっかり人気のスポーツとなりました。五郎丸選手はインパクトのある名前にくわえ独特のルーティンポーズで有名になりましたね。

「花園」は全国高等学校ラグビーフットボール大会の会場として全国的に有名です。野球の甲子園、ラグミーの花園というわけですね。社会人ラグビーリーグであるジャパンラグビートップリーグや全国高等学校ラグビーフットボール大会、関西大学ラグビーリーグ戦の試合会場としても使用されています。

1926 年大阪府中河内郡英田村の大阪電気軌道社用地に花園競馬場が造られました。数回の開催を行ったのみで閉鎖され、その跡地に 1929 年花園ラグビー場が開場しました。ラグビー愛好家でもあった秩父宮雍仁親王の意向によるものだと言われており、親王は勢津子妃とともに開場式にも臨席されました。

秩父宮殿下は「この辺りには随分空き地があるね。ラグビー場でも造ったらどうだい」と言われたそうです。大阪電気軌道の首脳は本気とは思わなかったようであいまいな返事をしたままで、ラグビー場を造る計画には至らなかったようです。

しかしその年、再び大阪電気軌道に乗った秩父宮殿下が「まだラグビー場はできないの？」と言ったため、遂に大阪電気軌道首脳部が動き出し、翌年には日本初となるラグビー専用競技場が完成したそうです。

戦時中には花園練成場と名を変え、パイロットの初等訓練施設に転用されました。またメインスタンド上屋は軍需物資として供出するため撤去され、戦争末期には食料増産のため農場となったこともあります。そういう経緯は後楽園球場などとも似ています。

1982 年 には「花園ラグビー場」から「近鉄花園ラグビー場」となりました。2015 年 4 月 1 日から東大阪市に第 1 グランド・第 2 グランドの所有権を譲り名称を東大阪市花園ラグビー場に変更となりました。

2019 年に日本で開催されるラグビーワールドカップの開催地に、花園ラグビー場も選ばれました。それに向け老朽化したスタジアムやスタンドの改修、芝生の管理、さらには国際試合を誘致するために必要な大型映像システムや照明塔などの設置など、国の補助金をうけているいろいろ整備していくようです。

人気のスポーツになれば競技人口も増え、つよいチームも出てくることでしょう。ラグビーといえば **One for All , All for One** 「1 人は皆のため、皆は 1 人のため」ラグビーの基本精神です。個人はチーム全体の為に自己犠牲をし、チームは一丸となって個人をサポートします。

フランスの作家アレクサンドル・デュマの『ダルタニャン物語』、『三銃士』の一節から来た言葉だそうです。が、実はこの All for One の One は勝利を意味するのだとか。確かに、一人のために皆が助け合うことは必要ですが、最終的な目標は「勝利」ということでしょうか。

まあ、それでも「皆は1人のため」の方が素敵な気がしますね。

11月23日 珍味の日

新嘗祭で山海の珍味が供えられることと、「11(いい)つまみ(23)」の語呂合せで、全国珍味商工業協同組合連合会が制定しました。

そもそも珍味とは珍しい味。めったには味わえない、変わった美味しい食物と辞書には書かれていますが、スーパーなどで見かける珍味と言え、スルメや塩辛などお酒のつまみ用に加工された食品のイメージです。特に珍しいという感じではありません。

全国珍味商工業協同組合連合会が定義する珍味とは「主として水産物を原料とし、特殊加工により独特の風味を生かし、貯蔵性を与え、再加工を要することなく食用に供せられる食品」とされています。

誰にでも美味と感じられる食材の味を甲とし、これに準ずるものとして乙な味（おつなあじ）と表現されることもあるとかで、いわゆる B 級グルメといった感じですね。またゲテモノという言い方も高級な上手物に対する呼び方もあります。

日本三大珍味は、ウニ（塩うに）、カラスミ、このわた。世界三大珍味は、キャビア、トリュフ、フォアグラとされています。日本各地に珍味といわれる食品があります。ハチノコやいなごの佃煮、クサヤ、からすみ、ふぐの卵巣の粕漬けなどツワモノぞろいです。

話を全国珍味商工業協同組合連合会の定義する珍味に戻せば、再加工することなく、つまりそのまま食べられる加工が施されているということで、燻製、佃煮、のし焼き、漬物、塩辛などに分類されます。また素材となる魚介類もイカ、タコ、アワビ、エビ、ホタテ、フカヒレなど様々です。

新嘗祭に神様に供えるために、全国からその地の特産の最高級品が集められ、そしてお祭りのあとに人々が頂いたお供え物。まさに命の糧を神さまからいただくための勤労を尊び感謝しあう「感謝の日」の大切な行事だったのです。美味しいお酒に珍味で命と勤労に感謝！

11月24日 1864年アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック

南仏のアルピでフランスを代表する名家に生まれたロートレックは、体があまり丈夫でなく学校ではなく家庭教師について勉強しました。子供の頃、ちょっとしたことで相次いで足を骨折し骨の成長が止まったそうです。

大学入学資格試験に合格しましたが、絵画の道で生きることを決め、モンマルトルのフェルナン・コルモンのアトリエで絵を勉強しました。元来の明るい性格で友人も多かったそうです。ベルナールやゴッホとも交友があったようです。

1888年、24歳でブリュッセルの20人展に出品。翌1889年アンデパンダン展で初のロートレック展を開きました、この頃はモンパルトルに入り浸って、お気に入りのナイトクラブで夜更かしをし、飲んで食べてしゃべって、そして絵を描く...そんな生活を繰り返していました。ロートレックの絵画やポスターにナイトクラブを描いたのが多い理由が、そういうところにあったようです。

1891年27歳で初のポスター「ムーラン・ルージュ」を制作し、以後数年間は制作と旅に多忙を極めました。この年から7年間で400点近い石版画を制作しました。

ロートレックは油絵以外にポスターや雑誌の挿絵を多く描いています。どちらかという、ポスター画の方が今では有名です。この頃のポスターと言えば、シェレ、ミュシャと並んでポスター美術の三傑人の一人とされています。

19世紀のポスターは、紙に絵を描いて印刷していたのではなく、石版に描いて印刷していたので、今のようになんかたくさんの色を使わず、ロートレックは3~4色しか使っていませんでした。少ない色と単純に見える線でユーモアたっぷりの絵に仕上がっています。

当時、最も新しい絵画様式であった印象派の画家のドガの斬新な構図や都会的な光の表現、明確な線描に大きな影響を受けながら自身の様式を確立しました。また石版多色刷りポスターには、日本の浮世絵からの影響を強く感じさせ作品もあります。

ロートレックのポスターや絵画は19世紀の作品でありながら、現代でもお洒落な感じで十分通用するのではないかと感じます。ロートレックは常にスケッチブックを持ち歩き、人や情景の一瞬のしぐさや様子を素早く描きとめていました。そこがロートレックの絵画がいきいきしている要因のひとつなのでしょう。

11月25日 ハイビジョンの日

1987年に郵政省とNHKが制定しました。ハイビジョンの走査線の本数が1125本であることに由来しています。

この日とは別に、9月16日が通商産業省(現在の経済産業省)の制定した「ハイビジョンの日」があります。こちらはハイビジョンの画面の縦横比が9:16に由来しています。ちなみに郵政省は現在の総務省、通産省は経済産業省になっています。

デジタル放送になってからハイビジョンってどうなったの?って感じなのですが、そういえばハイビジョンになればきれいな映像が見られると、特にNHKでは宣伝していたのは、いつごろのことだったかと調べてみれば、ハイビジョンの研究が始まったのは1964年と随分古いんですね。そして1991年からハイビジョン放送が始まったので、もう20年以上も前のことになります。

アナログ放送の画像は横に走る多数の線により構成されていて、ブラウン管のビーム銃は横向きに左から右へと首振りしながらこの走査線を再現し、右端まで行ったら次の走査線の左端に戻ります。そして一番下の右端まで行くと一番上の左端に戻ります。

従来のアナログ放送は、この走査線の本数が 525 本だったので 1125 本にすると約 2 倍の解像度が得られ、美しい画面を見ることができるというわけです。ところが時代はアナログからデジタルへ、ということで、この 1125 本アナログのハイビジョンは全く普及しないまま 2007 年で終了することになりました。

昔のテレビ画面は 3 : 4 の比率でしたが、今のテレビは 9 : 16 になっており黄金比に近づいたのですが、これはハイビジョンが盛んに言われていた 1990 年ごろから登場しました。大型テレビが発売され迫力ある画面にびっくりしたものです。

でも電気代が馬鹿にならないとか、画面の前が暑くなるとか、狭い部屋で見ると画面端から端まで見るのに首が疲れるとかありましたね。ましてや送信元がハイビジョンに対応していない場合は、横長の奇妙な画面だったり、左右に黒い部分があったり、天地が切れていたり、無理やり映し出しているのが興ざめだったのを思い出します。

現在それに代わってデジタルハイビジョンということで、これはパソコンの画面と同様に画像を線ではなくドットで表現する方式です。1080i という方式と 720P という方式があり 1080i の方が標準となっています。それでも高解像度を実現するための撮影機器は放送局や番組制作会社が充実するのが先決のようです。

NHK では 8K スーパーハイビジョンを推進していて、鮮明で大画面に対応する技術を開発しているようですが、まあ今ので十分な気もするし、そこまでテレビに要求しないというのが正直な気持ちです。大騒ぎしてデジタル化して、受像機を買い直さなくてはならなかったのも、ちょっと納得できないままだし。

11 月 26 日 1948 年ポラロイド社が世界初のインスタントカメラ「ポラロイド・ランド・カメラ」を発売しました。

かつてインスタントカメラといえば、とにかく大きくて持ち運びには不便なものでしたが、最近の小さくてお洒落な感じには驚きます。

9 月にベルリンで開催された『IFA 2015』でポラロイド社は 1000 万画素のプリンター内蔵デジカメ『Polaroid Snap』を発表しました。今年中には発売の予定だとか。日本円ではおよそ 1 万 2 千円程度になるそうです。

写真を撮ったら直ぐ見たい、そんな娘の願いをかなえるために開発したのがインスタントカメラの始まりだそうです。

デジタルカメラの時代になって、撮影したものが直ぐに見られるようになって、やはりその場で現像したものを手にしたいというのは誰も思うことでしょう。

ポラロイド社は 1937 年にエドウィン・ハーバード・ランドが創立し、その場で撮影し印画を画像形成することのできるカメラを開発しました。インスタントカメラと言えば「ポラロイド」というほど有名です。この成功

のおかげでイーストマン・コダックに次ぐ世界第2位のカメラメーカーに発展しました。

48年に発売開始されたポラロイドカメラはピークの91年は約30億ドル(約4千億円)の売上がありましたが、その後デジドカメが台頭してくるにつれ経営が悪化し2001年と2008年の2回も経営破たんしています。

ポラロイドと聞くと、インスタントカメラとフィルムばかりを思いますが、実はタブレットやテレビ、ヘッドホンなどの商品もあり、センスの良いおしゃれなデザインは多くの人に愛されています。Wi-Fiでスマートフォンに転送できるアクションカメラも先ごろ発売され、かわいらしい形と色に人気があるようです。

インスタントカメラも今では多くの企業が参入して様々な製品が発売されていますし、自動的に現像する方法はいくつかあるようですがカメラとしてだけでなく、多くの用途に使われています。

写真が趣味というわけでもありませんが、かわいらしいポラロイドスナップを見ていたら、ちょっと欲しくなっていました。

11月27日 1966年 福岡で第1回国際マラソン選手権が開催されました。

現在では「福岡国際マラソン」の名称になっており、日本人の男子選手には、オリンピック、世界選手権、アジア競技大会などの大きな国際大会の代表選定レースのひとつとして知られています。

この大会は、日本で「マラソンの父」と言われた金栗四三の功績をたたえる金栗賞『朝日マラソン』として1947年に金栗の地元熊本市で開催されたのが始まりでした。第2回以降1954年までは、開催地を高松市、静岡市、広島市、福岡市、宇部市、名古屋市、鎌倉市と毎年変えて続けました。

1955年には「朝日国際マラソン」として第9回が開催され、1957年の11回大会からは福岡開催が固定されました。1966年の大会から「国際マラソン」となりました。1966年の大会は「国際マラソン」としては第1回ですが、歴史ある大会としては第20回となりました。

日本陸連は世界陸連（IAAF）に対して世界選手権の開催を提案し、実質的に世界一を決める国際マラソン選手権として認められるようになったことで「国際」となったようです。

1974年の第28回大会からは福岡の名前を冠して福岡国際マラソン選手権となり現在に至っています。2011年からは国際陸上競技連盟による格付けで最高位となる「ゴールド」に昇格しました。これはびわ湖毎日マラソン、東京マラソンに続き3大会目になります。

福岡マラソンで上位となり、オリンピックに出場した選手と言えば、1979年大会では瀬古利彦・宗茂・宗猛の3人が1位から3位を独占し、幻となったモスクワ五輪の代表に内定しました。1995年大会では伏兵の大家正喜が3位に入りアトランタ五輪の切符を手に入れました。2003年大会では1位、2位の国近友昭、諏訪利成が代表選出され、アテネオリンピックに出場しました。

毎年12月の最初の日曜日に開催される福岡国際マラソンですが、今年12月6日のレースでは来年のオリンピックの選考大会となるので、川内優輝選手、高田千春選手など有力選手がリオへの切符を掴もうと虎視眈々の様相です。

招待選手のジョセフ・ギタウとガンドゥ・ベンジャミンが欠場するというニュースもあって少し残念ですが、熱気あふれる大会になることは間違いないですね。

11月28日 1929年 向田邦子さんが生まれました。

向田邦子は、父親が第一徴兵保険(東邦生命保険、現、ジブラルタ生命保険)に勤務していたの転勤族で、生まれは東京でしたが、日本各地を転々として成長しました。

宇都宮、鹿児島、高松などで暮らしたことがあります。1942年に香川県立高松高等女学校に入学しましたが、卒業したのは東京の都立目黒高等女学校でした。空襲でも奇跡的に自宅が焼け残ったそうです。

その後実践女子専門学校・国文科を卒業し、新聞の求人欄に「編集部員求ム」の広告を出していた雄鶏社に応募し採用され、雑誌『映画ストーリー』の編集に従事しました。この頃、脚本の勉強をしたり、小森和子ら映画界などの人脈が出来たりしました。

1960年フリーライターになり、1962年にはラジオドラマ「森繁の重役読本」脚本を執筆しました。この番組は森繁の絶妙な話術に負う所が大きいとはいえ、6年も続く人気番組でした。

「重役さん」なる主人公の中年男性が日常生活上の愚痴を独白したり、部下の「森繁くん」に重役の心得を説いたりする5分間の番組で、向田は自らの父親をモデルにして書いたものだったようです。

1970年には「だいこんの花」1971年にはお茶の間に一大旋風をおこした「時間ですよ」の脚本を担当しました。

1980年には『源氏物語』(TBS)、土曜ドラマ『阿修羅のごとく I・II』、ドラマ人間模様『あ、うん』(NHK)の脚本で第17回ギャラクシー賞・選奨を受賞し、短篇の連作『花の名前』『かわうそ』『犬小屋』で第83回直木賞を受賞し、邦子の絶頂期となりました。

亡くなりました。

しかし、1981年取材旅行中の台湾苗栗県三義郷で遠東航空機墜落事故にて亡くなりました。多くの方がその死を残念に思ったはずですが。実は飛行機嫌い。1981年5月に「ヒコーキ」(『霊長類ヒト科動物図鑑』)というエッセイで、「私はいまでも離着陸のときは平静ではいられない」と書き、あまり片付けて出発すると「やっぱりムシが知らせたんだね」などと言われそうで、縁起を担いで汚いままで旅行に出ると述懐していました。

この験担ぎも虚しく、なんと僅か3か月後に飛行機事故で命を落とすこととなったのでした。やっぱりムシが知らせたということでしょうか。

テレビドラマはもちろんですが向田氏のエッセイも面白く、もっと多くの作品が読みたかったなあと思うのは私だけではないと思います。恐らく大河ドラマや朝ドラの企画もあったでしょう。本当に残念です。残された作品

が余計に輝いて見えます。

11月29日 1924年 東京音楽学校でベートーヴェンの交響曲第9番が日本人によって初めて上演されました。

11月29日と30日の両日に行われた、東京音楽学校（後の東京芸術大学）第48回演奏会で第九が演奏されました。ベートーヴェンが作曲してから100年ほど経過しています。演奏をしたのは、講師生徒あわせて200余名で、指揮はドイツ人のグスターフ・クロン氏でした。クロン氏はもともとヴァイオリニストで、ニキシユヤリヒャルト・シュトラウスの指揮するベルリン・フィルと全世界を回った経歴の持ち主です。

演奏会は大盛会で、開演の数時間前には入場希望者の列が音楽学校の門を溢れ、となりの美術学校の前まで続き、奏楽堂の中では、溢れた聴衆が両側の通路まで満たしていたそうです。この演奏会が好評だったので、翌月12月6日には、早々と再演が行われました。

日本で最初に第九が演奏されたのは、1918年6月1日徳島に収容されていたドイツ人捕虜たちが編成したオーケストラ、徳島オーケストラの第2回演奏会だと言われています。沿岸砲兵隊軍楽隊長ハンセンが指揮をし、80人編成の合唱団の友好賛助出演を得ての演奏だったそうです。

この演奏も好評で8月には再演されましたが、その様子を音楽愛好家の徳川頼貞侯爵（紀伊徳川家 第16代当主）が著書「蒼亭楽話」の中に記しています。徳島オーケストラの資料の大部分と、指揮者ハンセンとオーケストラの写真は、鳴門市のドイツ館に保管されているそうです。

ところで、年末になれば「第九」、ベートーヴェンの交響曲第9番というイメージがありますが、さてどうしてなのでしょう。それは、1943年東京音楽学校の奏楽堂で行われた、学徒壮行音楽会に起因していると言われます。

太平洋戦争の状況悪化で法文系学生に徴兵令がくだるようになり、卒業式を12月に繰り上げ、「第九」の第四楽章で卒業と出征を祝ったのだそうです。そして戦後もまた、生き残った者達が帰らぬ友へのレクイエムとして、別れと同じ12月に「第九」を演奏しました。

また当時貧しかったオーケストラが、12月に「第九」を持って地方を回ると、知名度が高い上、合唱団員の知り合いを通してチケットが売り切れやすく、学生などにコーラスを頼むと出演料も安く抑えられ、収益が上がるのでした。それが年末のボーナスとしてもらえたので、安心して新年を迎えられたと言うわけでしょう。

アマチュアの合唱団が「第九」を盛んに歌うようになってきたのは1960年代以降のことです。日本のアマチュア合唱団も「第九」という難曲を歌えるほどに実力をつけてきたのです。合唱団の人たちも年に一度はこの難曲に挑戦してみたいと思うようになってきました。日本で年末に「第九」を歌う人口は20万人を越えると言われています。

ヨーロッパでは「第九」は音楽祭の締めくくりなどで演奏されることが多いようです。また、ドイツの多くの都市で年末に締めくくりに「第九」を演奏する習慣はあるようです。また第四楽章「歓喜の歌」の主題はEUの歌として採択されています。

『年末＝第九』という図式が日本で定着したのは、プロとアマチュアの境界線を越えて、共に音楽を奏でられる素晴らしい機会が一年を締めくくるとにふさわしく、また、新年へ向けての新しいエネルギーをも得られるからなのです。

ベートーヴェンが「人類はいつの日か、喜びを通して一つになれる」という希望を表現したという第九ですから、演奏する人も合唱する人も、そして観客も一体になって「喜び」を感じる不思議な曲なのかもしれません。

11月30日 1874年 L・M・モンゴメリが生まれました。

ルーシー・モード・モンゴメリは、カナダ東部プリンス・エドワード島のクリフトンに生まれました。母親が1才9ヶ月の時に23才の若さで亡くなったため、モードは母方の祖父母に引き取られキャベンディッシュの農場で育ちました。

祖父の詩の朗読をはじめ、叔母たちから多くの物語や思い出話を聞きながら、文学の才能を伸ばしたと考えられますが、祖父は保守的で、祖母は支配的で口うるさい性格で厳しかったので、あまり好きではなかったようです。

1880年には父と継母と暮らすため、サスカチュワン州のプリンス・アルバートに送られたが、1年後にはプリンス・エドワード島の祖父母の家に戻りました。

1894年にはシャーロットタウンのプリンス・オブ・ウェールズ・カレッジ（Prince of Wales College）を卒業し、一級教員免許を取得しました。島にあるさまざまな学校で教師を務めたあと、1898年に祖父が亡くなると祖母と暮らすためにキャベンディッシュに戻りました。祖父は地元の郵便局長も務めていたので、その仕事も彼女が引き継ぎました。

1906年には気難しい祖母との辛い暮らしのなかで相談相手となってくれた教会牧師ユーアン・マクドナルドと婚約しました。1908年には最初の長編小説『赤毛のアン』を出版し、世界的ベストセラーとなりました。

その後祖母が亡くなり、1911年にユーアン・マクドナルドと結婚しました。オンタリオ州リースクデールに移り住み、続き11冊の本をリースクデールの牧師館で書きました。

『赤毛のアン』は日本では、1952年に村岡花子により翻訳・紹介され、主に少女たちの間で熱狂的に愛読されました。中学の国語の教科書に収録され多くの人々に知られるところとなりました。アニメーションとしてテレビ番組になり、それも人気があったようです。

第1作『赤毛のアン』ほか、シリーズ全作には、ウィリアム・シェイクスピアやイギリス、アメリカの詩、『聖書』の句が多数引用されたりパロディがあったりして、原典を知っている人には、もっと興味深い作品となっています。

生誕100年の年に孫娘により彼女の最期が自殺だったことが公表されました。またそれまで、生前書き溜めた日記も広く世間に知られるところとなりました。

9才の頃から日記を書いていましたが、最初の頃の5年分の日記は本人の手により焼却されてしまいました。現存している日記は14歳のときから書き綴られた10冊の手書きの日記帖です。この日記は本人の遺言により公開を禁じられていたので、存在さえ知られていなかったものが1992年 公開されました。

自らの少女から青春時代を投影したようなアンシリーズでモードは世界的な著名人となりましたが、私生活ではうつ病の夫の看病をしながら悩みの多い暮らしだったことがうかがい知れます。こうした悩み多い暮らしもまた、読者には、赤毛のアンとは違う感動を与えるものとなっています。